

『北東アジア研究』の創刊について

われわれは、新しい世紀の始まりに立って、この交流の深化・発展に資するため、当該地域についての諸課題を世界的広がりの中においてとらえつつ、社会科学を中心とした人文社会科学系の視座と手法から研究を進め、発展させることを目指すものである。ここでは新しい研究領域を積極的に切り拓いていくことが求められている。新しい課題に対してアプローチのための社会科学的な視座の確立と手法の創出が求められているのである。たとえば、地域紛争、民族問題、環境問題など人間の諸活動にともなって国民国家の枠を超えてさまざまな課題が生じており、これらの現象を考究する方法的な視角を確立することは、自ずから世界研究であり、また地域研究となるものである。

北東アジアの地域と諸国は、距離的には近かったにもかかわらず、これまでは冷戦時代の影響が残り、相互に疎遠な関係であることを余儀なくされてきていた。しかし、いま21世紀の初頭においてこの環境は大きく変化しつつあり、世界の底流としての経済のグローバル化の流れの中でも、この地域での交流は、貿易と投資の拡大のみならず、経済、技術、情報、教育、学術、文化を含めて広い領域で飛躍的に発展することが可能となっている。

島根県立大学北東アジア地域研究センターはこのような環境変化のもとで創立された。

いま世界的に見ても、また地域的な視点からも食料、健康、人口、エネルギー、ライフスタイル、経済社会システム、価値観、教育システム、情報秩序、参加とパートナーシップ、民主主義等々、その他あらゆる課題の研究とそれへの取り組みが、早急に求められている。国際・地域関係、地域社会システム、また科学技術開発、IT（情報技術）の社会への適用等の研究は、いずれをとってみても、社会的な知識の統合を要求するとともにこれを個別具体的な場に根ざした政策方法として実現することを必須のものとしているのである。

それには北東アジアの研究者のみならず、世界的な視野に立ち、内外の研究者・関係者と広く積極的な研究交流を図ることが求められている。これらの研究活動を通じて新しい学術研究体系の創出を図るだけでなく、北東アジアの将来を見きわめるうえで必要な世界認識を獲得し、さらにそれを基に課題の解決に取り組むことも可能になってくる。

北東アジアの地域開発、地域間協力に関わる諸問題をはじめ、多様な課題に積極的に取り組み、より良い「未来シナリオ」を構想し、構築し、その具体化に向けて提言していくことも重要である。これにより、初めて研究の独自性、有効性を確立し、未来への展望を実現することが可能になる。

これらの研究・交流活動を促進するため、島根県立大学北東アジア地域研究センター（NEAR）は、新たに紀要『北東アジア研究』を創刊し、定期的に発行することとした（年1－2回の定期発行を予定）。ここには当研究センター研究員や島根県立大学の研究者のみならず、関係する内外の研究者からの投稿も歓迎し、開かれた研究紀要としてゆきたいと考えている。

北東アジア地域研究センター長

増田 祐司

（2001年3月15日）